頭脳循環プログラム第３回個別セミナー

「関西比較中世都市研究会」

（關西比較中世城市研究会、Kansai Research Group for Comparative Studies on Medieval Cities）

2012年4月27日（金）19:00～21:30

会場：大阪市立大学文化交流センター　小セミナー室　（大阪駅前第２ビル６階）

報告；與座良一氏（中国宋代史・佛教大学）「宋代の都市と軍隊」

従来、唐代後半から宋代にかけての中国都市の変化として、坊墻制や市制の解体、都市周辺における市鎮の叢生などが注目されてきた。そこには確かに自由な商業活動の広がりといった状況が確認出来る。一方で市鎮の分散する地域の中心には州県城があり、唐宋間に人口の倍増した州県の行政都市は、商業発展の中核にもなったとされる。そこで中央政府は、国都から州県城へ官僚を派遣し、さらに軍隊を配備することで領域支配を貫徹しようとした。

さて中国史では、軍事制度の変更も唐代後半からの変化の一つとして注目されてきた。それは唐代前半までの兵農一致の軍制から、兵農分離への変更であるが、宋代の兵士（募兵）は、兵役だけでなく唐代農民が担った雑役の一部をも負担した。そのため各都市に配備された軍隊の役割は、治安維持のほか各種公共事業にまで及び、都市と軍隊の関わりも多様なものとなった。本報告では、こうした軍隊と宋代都市の多様な関係を当時の史料から確認していきたい。

コメント；白幡俊輔氏（イタリア史・京都大学）

幹事　仁木　宏（日本史、大阪市立大学大学院文学研究科教授）
山崎覚士（東洋史、佛教大学歴史学部歴史学科准教授）
中谷　惣（西洋史、大阪市立大学都市文化研究センタードクター研究員）